

基礎的・基本的な知識や技能を習得させるための指導の工夫

—「ミシンにトライ！手作りで楽しい生活」の実践を通して—

上浮穴支部

1 研究の視点

実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

2 実践事例

(1) 題材名 ミシンにトライ！手作りで楽しい生活

(2) 目標

- 身の回りの生活に役立つ布を用いた物の製作に関心をもち、ミシンを活用して布製品を製作しようとしている。
- ミシンを活用して自分なりに工夫して製作したり、製作したものを生活に活用したりしよう และสามารถ。
- 製作に必要な用具を安全に取り扱い、目的に応じた縫い方で製作することができる。
- ミシンの基礎的な操作が分かり、ミシンの直線縫いの仕方や用具の安全な取り扱いを理解している。

(3) 題材設定の理由

- 本校は、全校児童11名の小規模校である。本学級の児童は、5年生2名、6年生1名の合計3名である。AB年度方式で家庭科の授業を行っており、1年間家庭科学習を経験している6年生と家庭科学習の経験がない5年生が同時に学習を行っている。1学期には、手縫いによる作品作りを行い、意欲的に取り組んだ。家庭科学習に対する関心は高く、アンケート調査では全員が「とても好きである」と回答している。
- 本題材は、身の回りにある布で作られた物に目を向けて「布」のよさや特徴に気づき、自分の生活に役立てたり家族の生活を楽しく豊かにしたりする布製品を手作りする喜びや、それを生活に役立てる楽しさを味わうことのできる題材である。また、ミシンを活用した物の製作に必要な材料や製作手順について考えて製作することにより、製作する物や使い方などに応じた製作計画の必要性と計画の立て方について理解を深めながら、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることのできる題材である。
- 指導にあたっては、少人数であり教師の目が行き届きやすいこと、6年生が5年生へ教えることができることを生かして、実践的・体験的な活動の充実や教え合いの場の充実を図る。その際、既習事項を想起させたり、製作過程で試行錯誤させながら自分で適切な方法を見つけ出せるようにしたりすることにより、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、それを活用する力を高めたい。今回は、調理実習でも使えるエプロンを製作する。布の柄、ひもの色、ポケットの大きさや位置、数などを自分で選択したり考えたりする場面を充実させ、自分に合った「マイ・エプロン」ができたという実感をもたせ、製作の楽しさや喜びを感じさせたい。

本時は、エプロンの製作手順の根拠を理解した上で、製作計画を立てることをねらいとしている。まず、手順を書いたカードを選択し、どの順番で作業したらよいかを個人で考えさせる。その際、基準となる視点として、エプロンを完成することができるようにすること、作業がしやすいようにすることという視点で考えさせ、手順が変わると完成することができないところがあることに気付かせたい。次に、自分の考えの理由を話し合い、手順の根拠を確実に理解させる。次時には、実際にミニチュアのエプロンを製作し、手順の根拠について実感を伴った理解をさせるとともに、エプロン製作に必要な基礎的・基本的な知識・技能を高めたい。

(4) 指導と評価の計画 (全13時間)

時数	学習内容	評価基準 (評価方法)			
		関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	知識・理解
1	身の回りにある布で作られた物から、縫い目について調べ、手縫いやミシン縫いの特徴とそれぞれのよさを考える。	身の回りの生活に役立つ布を用いた物とその製作に関心をもっている。			ミシン縫いは丈夫で早く縫えるという特徴が分かる。

11	ミシンやミシン縫いについて調べる。ミシンの使い方を学習し、試し縫いをする。	ミシンの使い方に関心をもち、適切な手順で使用している。			ミシンの基礎的な操作が分かり、直線縫いの仕方について理解している。
	ミシンを使って製作するものの計画を立て、型紙をつくる。		ゆとりや縫いしろを考えながら、自分に合った大きさの型紙になるよう工夫している。		
	布端の始末に必要な三つ折りの練習をする。			製作に必要な用具の安全な取り扱いができる。ミシンを用いて直線縫いをすることができる。	用具の安全な取り扱いや布端の始末の仕方について理解している。
	手順の根拠について考え、自分の製作計画を立てる。(本時)			手順の根拠をもとに、製作計画を立てている。	
	学習を生かしてミニチュアの製作をする。				手順の根拠について理解している。
	マイ・エプロンの製作をする。	目的に応じた縫い方で製作し、その楽しさや活用する喜びを味わっている。	目的に応じて、縫い方や直線縫いの場所を工夫している。	三つ折りによる布端の始末ができる。	
1	作品発表会で友達と見せ合う。		製作したものの工夫点や改善点を考え、今後の生活に生かそうとしている。		

(5) 本時の指導 (8/13)

ア 目標 エプロンの製作に必要な手順の根拠をもとに、製作計画を立てる。

イ 準備物 ワークシート、手順カード (児童用・掲示用)、ミシン、ミニチュアの見本

ウ 展開

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 ◎評価
1 前時までの学習を振り返り、学習課題を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> エプロンを作るには、どのような手順で進めればいだろうか。 </div>	○ 手順が変わると完成できないことがあることを意識させる。
2 手順カードの並び替えをして考える。	○ エプロンが完成するように、手順を考えてカードを並び替えましょう。 ・しるしを付けるのが最初だな。 ・ひもは、最後に通せばいいな。	○ 考えが進まない児童には、ミニチュアの見本を見せて考えさせる。
3 自分の考えを発表する。	○ 考えと理由を発表しましょう。 ・ポケットはひっかかりそうだから、後の方でぬい付けるといいな。 ・ひもが通らなくなってしまうから、斜めの部分は後の方がいいな。	○ 自分の考えの理由を発表させ、手順の根拠を捉えさせる。

<p>4 まとめをする。</p>	<p>○ 順番が入れ替わってもよいところはあるでしょうか。また、入れ替わると完成できないところはあるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上とわきはどちらでもいいな。 ・斜めの部分は上とわきの後でないと、ひもが通らなくなるな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ひもが通るように、斜めの部分は、上やわきより後にぬう。ポケットは、後で付ける。</p> </div>	<p>○ 自分の決めた手順を記入し、製作過程に影響のない手順に関しては、自分で選択させる。</p>
<p>5 自分の決めた手順をワークシートに記入し、振り返りをする。</p>	<p>○ .自分の決めた手順で製作計画をワークシートに記入しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斜めの部分を先にぬうとひもが通らないんだな。 ・物を作る手順には意味があるんだな。 	<p>◎ 手順の根拠をもとに、製作計画を立てている。【ワークシート】</p>
<p>6 次時の活動について伝える。</p>	<p>○ 今日学習した手順で、ミニチュアエプロンを製作しましょう。</p>	<p>○ 縫う過程から取り組ませることで、わきの縫いしろの手順を特に意識させる。</p>

(6) 活動の実際

○ 実感を伴った理解を促す実践的・体験的な活動の充実

ア 試行錯誤させる場の設定とその充実

(ア) 型紙作り

今回は、目的に応じてゆとりや縫いしろの必要性も考えながら適切な形や大きさを工夫する力をつけるため、型紙を自分で作らせることにした。教科書に記載されている寸法を基本として、模造紙を実際に体にあてながら、自分の体や好みに合った大きさや形を決定した。その際、どのくらい先まで使いたいかなども意識し、身長や体重の増加を考えて大きさを決めるなどの工夫をする様子が見られた（写真1）。



〈写真1 型紙作り〉

(イ) 布端の始末の学習

あえて布端のほつれやすい布を用いて、布端の始末の必要性について実感させた後、三つ折りの練習に取り組みさせた。三つ折り部分の直線縫いでは、縫い代の端を縫わないと折り込んだ部分が縫えずにほつれてしまう。その際、数ミリのずれによって三つ折り部分に縫えていない所ができてしまった経験から、三つ折りの際に縫うべき場所が分かり、実感を伴った理解につながった（写真2）。



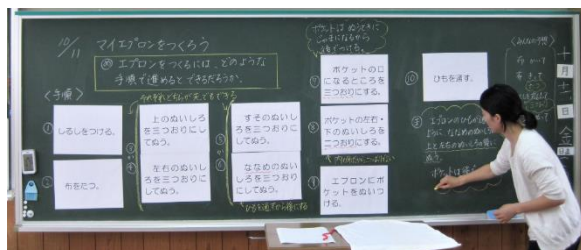
〈写真2 布端の始末〉

(ウ) 製作計画の作成

布を使った物の製作では、手順を間違えると完成することができない。手順の計画の重要性を考えさせるために、製作手順を書いたカードを用いた（写真3）。カードを並べ替えながら、その手順でうまくいくかどうか考えて、正しい手順を見つけ出させるようにした。その際に、エプロンを完成することができるようにという視点と、作業がしやすいようにという2つの視点をもたせた。児童が迷っているところでは、教師のエプロン作品の見本を観察させて考えさせた。児童は手順の根拠を理解し、自分の作業計画を立てることができた（写真4）。



〈写真3 手順の選択〉



〈写真4 板書〉

(エ) ミニチュアの試作品

その後、考えた手順や製作方法を確認させるため、製作の前にミニチュアの試作をさせることにした。児童はこれまでに身に付けてきたアイロンでの三つ折りとミシンでの直線縫いなどの技能を自分で確かめながら、自分の作業計画に沿って進め、手順を間違っては完成できないところがあることについて実感するとともに技能を高めることができた(写真5)。



〈写真5 ミニチュア試作〉

イ 既習事項を生かす場の設定

5年生2名は家庭でミシンを使用した経験はなく初めてミシンの学習に取り組んだが、6年生は昨年度の既習事項であるため、教え合いの場の充実を図った。5年生は6年児童の既習の実体験から得たコツを学ぶことで理解を深め、6年生は教えるという経験により、ミシンの基礎的な操作と知識の確実な定着につながった。



〈写真6 作品発表会〉

単元を通して、これまでの学習のまとめや、製作物を提示するなど、既習事項を想起させながら学習を進めるようにした。本校はAB年度方式であり、今年度の1学期にはフェルト小物の製作を行っている。その際に、刺しゅうやビーズなどの飾りを付けたい児童が、先に左右を縫い袋状にしてしまったために飾りを縫い付けづらいことに気付き、途中までやり直すという場面が見られた。製作計画では、この手縫いでの経験を想起させることにより、手順の根拠を理解し製作計画を立てることの重要性を児童は実感し、手順の根拠を理解して製作計画することにつながった。作品発表会では、作った作品を見せ合って気付いたことやよかったこと、改善点などを伝え合って学習事項を振り返らせるようにした(写真6,資料1)。

マイ・エプロンをつくらう		名前()	
番号	手順	日時	気付いたこと
1	しるしをつける	10/24	布の裏側にしるしをつけてから縫うと縫いやすかった。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。
2	布をたつ	10/24	上手にたつと縫いやすかった。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。
3	上のぬいしろを三つ折りして縫う	10/24	だいたいままで縫えた。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。
4	左右のぬいしろを三つ折りして縫う	10/24	縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。
5	すそ側のぬいしろを三つ折りして縫う	10/24	縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。
6	ななめのぬいしろを三つ折りして縫う	10/24	縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。
7	ポケットの口になるように縫う	10/28	縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。
8	ポケットの口を縫う	10/28	縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。
9	エプロンにポケットを縫い付ける	10/28	縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。
10	ひもを通す	10/28	縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。縫い終わりにしるしを消すのが大変だった。

〈資料1 ワークシート〉

3 成果と課題

既習事項を想起し、試行錯誤しながら演習を繰り返す機会を多く設けたことで、ミシンの基本的な操作が分かり、直線縫いの仕方や布端の始末の仕方についての技能を、より確実に身に付けることができたと考える。また、布で作る物は手順を間違えると完成することができないことがあることを実感し、手順の根拠を理解して計画したことを実践することができた。そして、布を用いた製作過程には細やかな配慮を必要とするが、それには見た目の美しさの他にも根拠があることを理解した。このように、自分で試行錯誤して作り方を見つけ出させることで、今後、他の物を作る応用力をつけることにもつながったと考える。

課題として、児童は型紙に合わせて縫いしろをとり、しるしをつけて布を裁つ作業と、ポケットの大きさや位置を決めて縫い付ける作業において一番難しさを感じていた。ポケットの製作では実際に体に当ててみるなどして大きさを考え、自分の体や用途に合うようデザインを工夫したり、教科書にある角の縫い方を実践したりし、失敗の経験を生かして初めての作業を慎重に進めて知識と技能を高めることができていた。今後もその時の児童のつまづきやすいところを見極め、指導方法を検討することが必要である。また、現在家庭ではミシンを使用した物の製作を行う機会は少ない。今回身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を今後さらに生かせる場を、学校生活の中でつくっていくことが必要であると考えられる。